

データで見る! さっぽろ経済の動き

札幌の景気は、今どのような状況にあるのでしょうか?

「データで見るさっぽろ経済の動き」では、最近の札幌市や北海道の主な景気指標を時系列にまとめ、データやグラフを交えて、経済の動きを分かりやすくお伝えします。

◆◆◆ 目 次 ◆◆◆

1. 最近の札幌経済の概況	p. 1
2. 主要経済指標の動き	p. 2
(1) 個人消費の動向	p. 2
(2) 住宅着工の状況	p. 5
(3) 鉱工業の生産動向	p. 5
(4) 公共工事の動向	p. 6
(5) 雇用情勢	p. 6
(6) 倒産状況	p. 7
(7) 観光客の動向	p. 7
3. 札幌の産業規模のまとめ	p. 8
(1) 人口の動向	p. 8
(2) 事業所、従業員の動向	p. 10
(3) 市内総生産、市民所得	p. 11
(4) 企業の景況感	p. 12
【参考】主要経済指標	p. 13

1. 最近の札幌経済の概況

令和元年7月-8月の統計データをもとに、札幌経済の概況を総括しています。

(1) 札幌の経済概況

最近の札幌経済は、緩やかに回復しています。

(2) 主な経済指標の動向

項目	概要	前年同月データとの比較
個人消費の動向 (p.2~4)	・7月の百貨店・スーパー販売額(札幌市)は425億円で、5か月振りに前年同月を下回る(▲2.2%)。	(百貨店・スーパー販売額) 435億円→425億円 ↓
	・7月のコンビニ、家電大型専門店、ドラッグストア、ホームセンターの販売額の合計(北海道)は997億円で、12か月連続で前年同月を上回る(+0.2%)。	(コンビニ、家電、ドラッグストア、ホームセンター販売額) 995億円→997億円 ↑
	・7月の新車登録台数(札幌運輸局管内)は10,868台で、2か月振りに前年同月を上回る(+0.8%)。	(新車登録台数) 10,785台→10,868台 ↑
住宅着工の動向 (p.5)	・7月の新設住宅着工戸数は、1,774戸となり、2か月連続で前年同月を上回る(+2.8%)。	(着工戸数) 1,726戸→1,774戸 ↑
鉱工業の生産動向 (p.5)	・8月の鉱工業生産指数(北海道)は、93.1(季節調整済)となり、2か月連続で前月を下回る(▲1.6%)。	(生産指数:季節調整済) 94.6→93.1 ※ ↓
公共工事の動向 (p.6)	・8月の公共工事請負額(石狩管内)は、144億円となり、5か月連続で前年同月を上回る(+3.5%)。	(請負額) 139億円→144億円 ↑
雇用情勢 (p.6)	・8月の有効求人倍率(札幌圏)は、1.15となり、114か月連続で前年同月を上回る(+0.07ポイント)。	(有効求人倍率) 1.08→1.15 ↑
倒産状況 (p.7)	・8月の企業倒産件数(札幌市)は、7件となり、前年同月と横ばい。負債総額(札幌市)は、4億円となり、前年同月を上回る。	(倒産件数) 7件→7件 →
観光客の動向 (p.7)	・8月の来道客数(北海道)は、153.1万人となり、2か月連続で前年同月を下回る(▲0.1%)。	(来道客数) 153.3万人→153.1万人 ↓

※鉱工業生産指数は前月データとの比較

(3) 参考(他機関の概況判断)

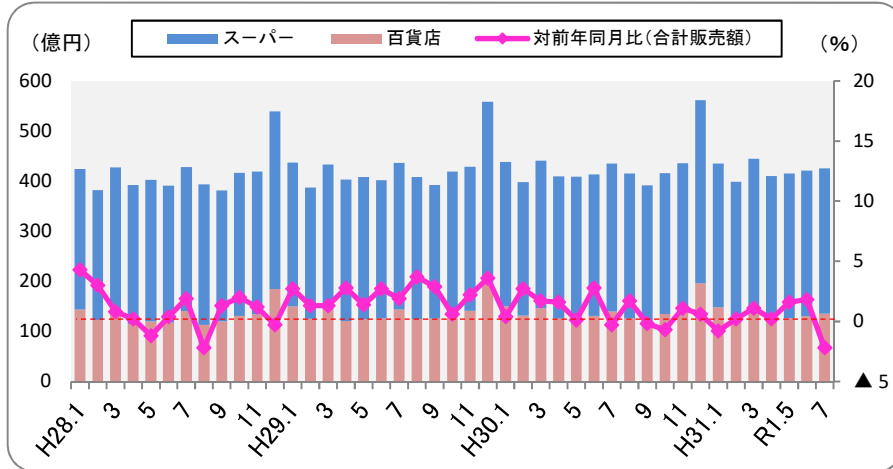
項目	全国の動向	北海道の動向
	内閣府「月例経済報告」 (令和元年9月19日発表)	北海道経済産業局 「管内経済概況」 (令和元年9月13日発表)
全体	景気は、輸出を中心に弱さが続いているものの、緩やかに回復している。	一部に持ち直しの動きがみられるものの、足踏み状態となっている。
個人消費	持ち直している。	一進一退となっている。
住宅投資	このところ弱含んでいる。	弱まっている。
設備投資	機械投資に弱さもみられるが、緩やかな増加傾向にある。	増加している。
生産	横ばいになっているものの、一部に弱さが続いている。	弱い動きとなっている。
公共投資	底堅さが増している。	増加している。
雇用情勢	着実に改善している。	改善している。
企業倒産	おおむね横ばいとなっている。	件数、負債総額ともに増加している。
観光	—	足踏み状態となっている。

2. 主要経済指標の動き

個人消費、雇用状況、倒産の状況など、最近の主要経済指標の推移をご紹介します。

● 個人消費の動向（その1）

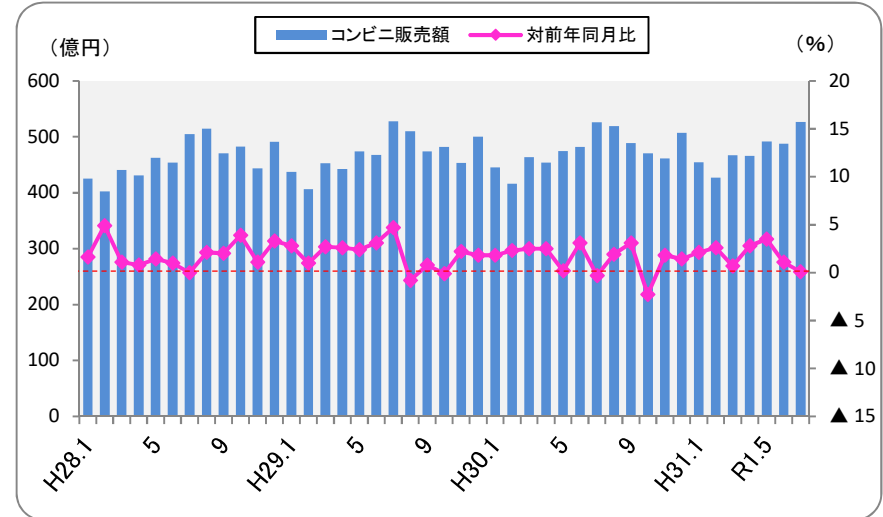
【図1】百貨店・スーパー販売額の推移(札幌市) 7月分



* 品目別百貨店・スーパー販売額前年同月比(札幌市) (%)

	合計				
	衣料品	身の回り品	飲食料品	その他	
合計	▲ 2.2	▲ 6.1	▲ 6.9	▲ 1.6	0.0
百貨店	▲ 3.3	▲ 5.0	▲ 5.3	▲ 1.6	▲ 1.7
スーパー	▲ 1.7	▲ 9.6	▲ 12.9	▲ 1.5	1.2

【図2】コンビニ販売額の推移(北海道) 7月分



<資料>北海道経済産業局

<資料>北海道経済産業局

○令和元年7月の百貨店・スーパー販売額(札幌市)は、425億円で、前年同月を5か月振りに下回りました(▲2.2%) (図1)。

業態別では、前年同月をスーパー、百貨店ともに下回りました(百貨店▲3.3%、スーパー▲1.7%)。

品目別では、前年同月を飲食料品、衣料品、身の回り品で下回り、その他は横ばいとなりました。

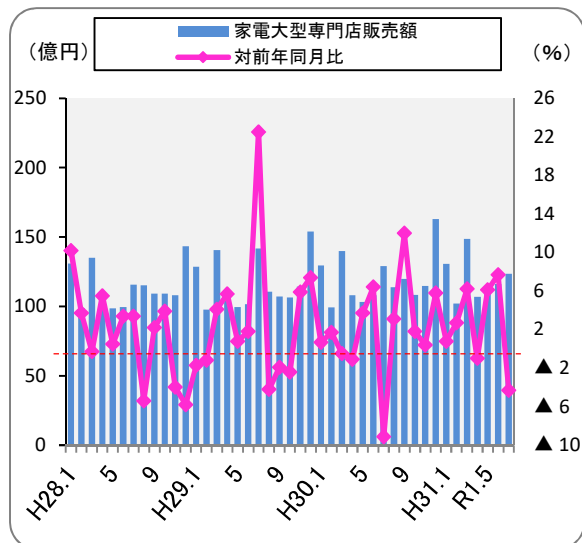
○令和元年7月のコンビニエンスストア販売額(北海道)は、527億円で、9か月連続で前年同月を上回りました(+0.1%) (図2)。

※百貨店・スーパー販売額については、平成27年7月に調査対象事業所の見直しを行ったため対前年同月比の数値調整を行っている。

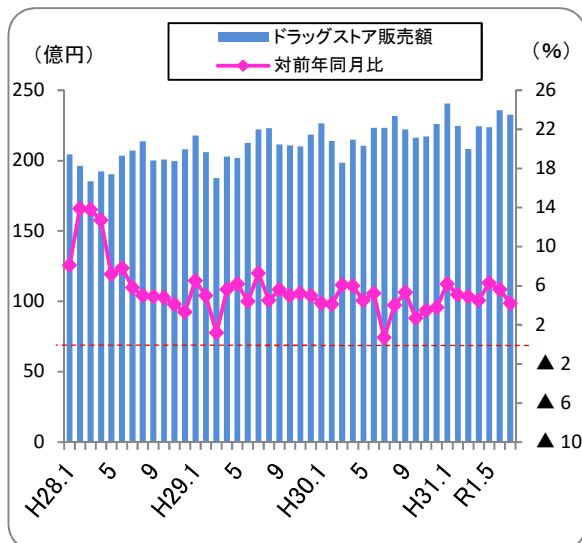
(調整を行った期間は平成27年8月から平成28年7月まで)

● 個人消費の動向（その2）

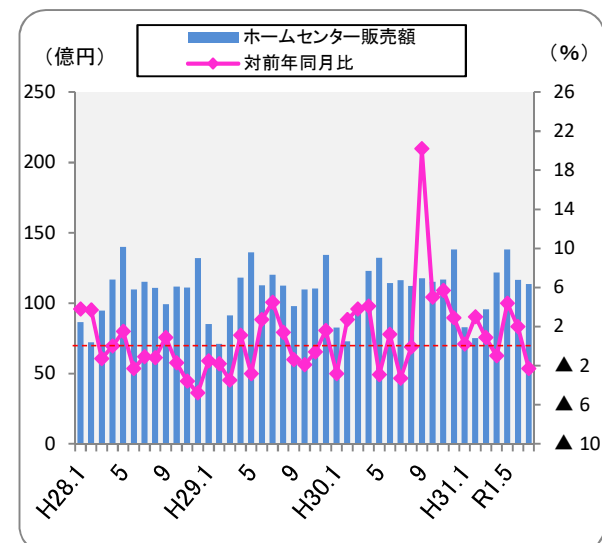
【図3】家電大型専門店販売額の推移（北海道）
7月分



【図4】ドラッグストア販売額の推移（北海道）
7月分



【図5】ホームセンター販売額の推移（北海道）
7月分

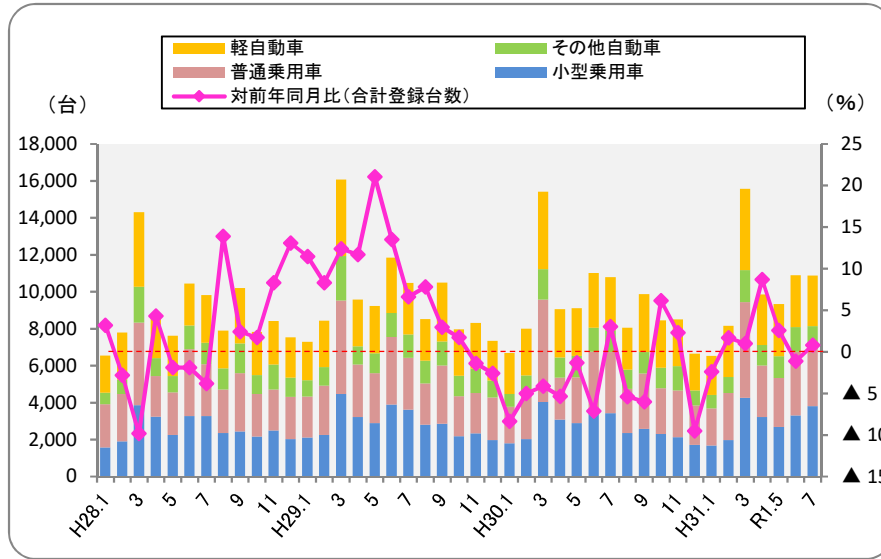


<資料>北海道経済産業局

- 令和元年7月の家電大型専門店販売額（北海道）は、123億円で、3か月振りに前年同月を下回りました（▲4.3%）（図3）。
- 令和元年7月のドラッグストア販売額（北海道）は、233億円で、51か月連続で前年同月を上回りました（+4.2%）（図4）。
- 令和元年7月のホームセンター販売額（北海道）は、114億円で、3か月振りに前年同月を下回りました（▲2.3%）（図5）。

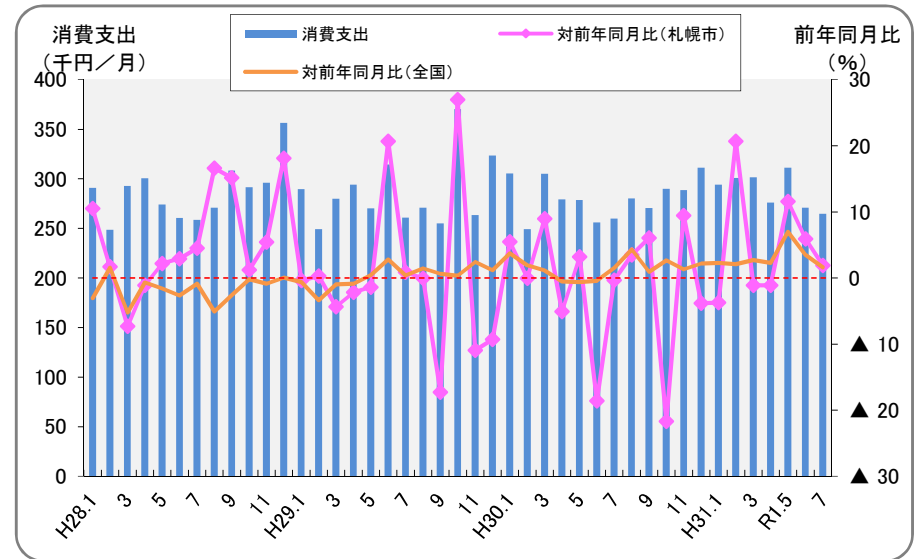
● 個人消費の動向（その3）

【図6】新車登録台数の推移(札幌運輸局管内)7月分



<資料> 自販連札幌支部、全国軽自動車協会連合会札幌地区事務取扱所

【図7】消費支出(札幌市) 7月分



集計世帯数
全国:7,501 札幌市:91

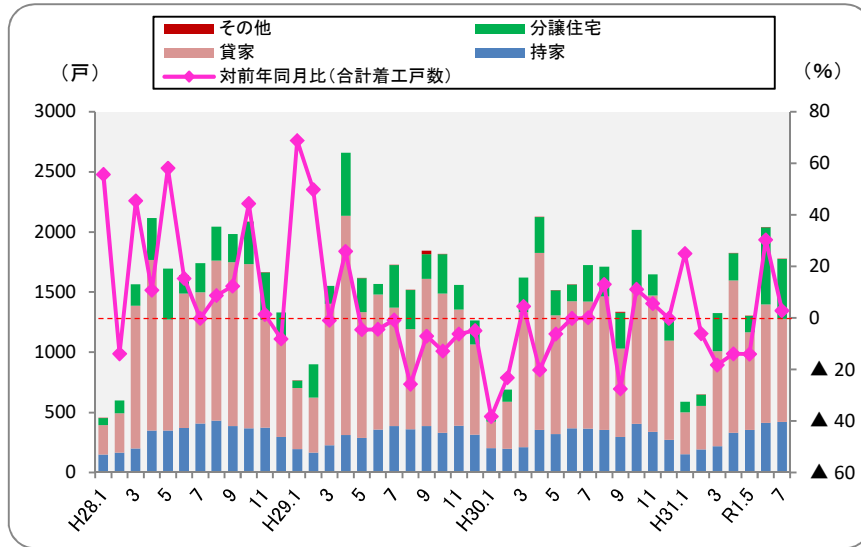
<資料> 総務省統計局「家計調査」

○令和元年7月の新車登録（届出）台数（札幌運輸局管内）は、10,868台となり、2か月ぶりに前年同月を上回りました（+0.8%）。車種別では小型乗用車（+10.7%）が前年同月を上回りましたが、普通乗用車（▲6.6%）、軽自動車（▲4.8%）は前年同月を下回りました（図6）。

○令和元年7月の家計調査（総務省統計局）によると、一世帯当たり（二人以上の世帯）の消費支出は264,697円となり、3か月連続で前年同月を上回りました（+1.9%）（図7）。

● 住宅着工の動向

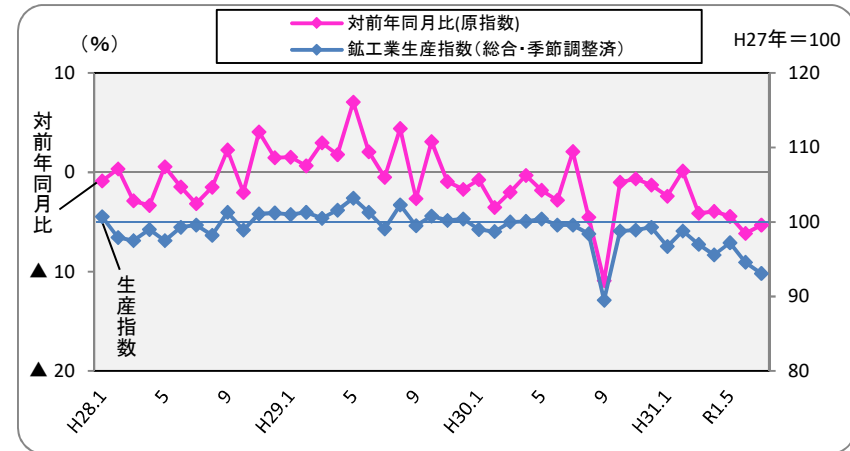
【図8】新設住宅着工戸数の推移(札幌市) 7月分



<資料>国土交通省

● 鉱工業の生産動向

【図9】鉱工業生産指数の推移(北海道) 7月分



* 主な業種別の前月に対する上昇・低下項目(北海道)

	業種	ウエイト(%)	季節調整済指数	前月比(%)
上昇	食料品工業	25.9	105.3	+ 3.7
低下	輸送機械工業	6.8	94.1	▲ 2.3
	パルプ・紙・紙加工品工業	13.1	87.8	▲ 5.0
	鉄鋼業	7.9	94.7	▲ 6.1
	印刷業	4.1	81.8	▲ 7.2
	金属製品工業	7.6	79.3	▲ 7.4
	化学・石油石炭製品工業	7.6	78.2	▲ 22.7

ウエイトは鉱工業生産指数(北海道)全体への影響の大きさを表すもの。
上記の7業種については、札幌市の製造業における付加価値額が大きいものから選定した。
<資料>北海道経済産業局

○令和元年7月の新設住宅着工戸数(札幌市)は1,774戸となり、2か月連続で前年同月を上回りました(+2.8%) (図8)。

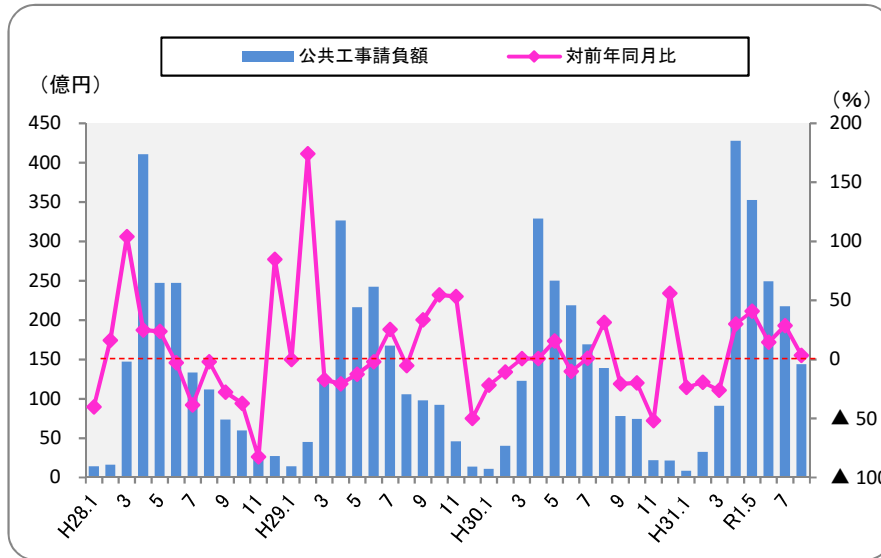
内訳は、持家が+15.9%、貸家が▲18.9%、分譲住宅は+62.0%でした。

○令和元年7月の鉱工業生産指数(北海道)は、93.1(季節調整済指数、速報値)となり、前月比▲1.6%と2か月連続で下回りました(図9)。

なお、前年同月比は▲5.3%(季節調整を行わない原指数)下回りました。

● 公共工事の動向

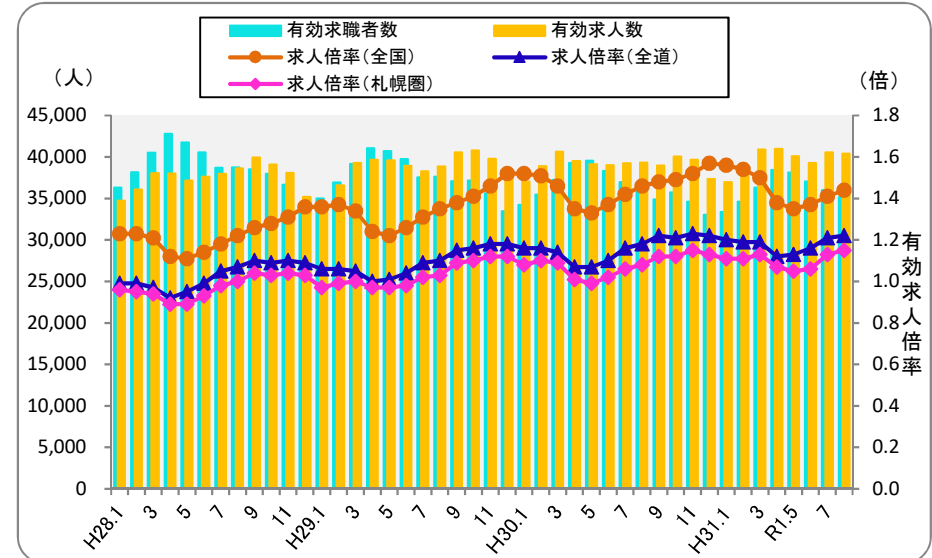
【図10】公共工事請負額の推移(石狩管内) 8月分



<資料>北海道建設業信用保証㈱

● 雇用情勢

【図11】求職・求人、有効求人倍率の推移(札幌圏) 8月分



<資料>厚生労働省・北海道労働局
 ※札幌圏とは、札幌市、江別市、北広島市、石狩市(浜益区を除く)、当別町、新篠津村を指す。
 ※上記数値は、学卒を除き常時パートタイムを含む。

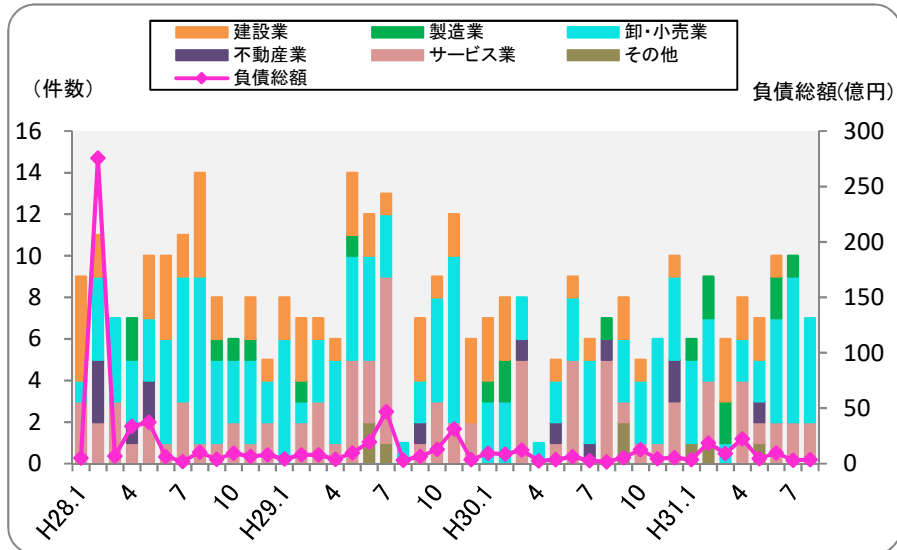
○令和元年8月の公共工事請負額(石狩管内)は144億円となり、5か月連続で前年同月を上回りました(+3.5%) (図10)。

○令和元年8月の有効求人倍率(札幌圏)は、1.15と、平成22年3月以降、114か月連続で前年同月を上回りました(+0.07) (図11)。

有効求人数は6か月連続で前年同月を上回りました(有効求人数+2.8%)。また、有効求職者数は94か月連続で前年同月を下回りました(有効求職者数▲3.6%)。

● 倒産状況

【図12】企業倒産件数と負債総額の推移(札幌市) 8月分



＜資料＞株式会社帝国データバンク
 ※倒産5法(会社更生法、民事再生法、破産法、商法に基づく特別清算及び会社整理)による負債額1,000万円以上の法的整理が対象。

○令和元年8月の法的整理による企業倒産件数(札幌市)は7件で、前年同月と同数でした。負債総額は4億円で、前年同月を上回りました(図12)。

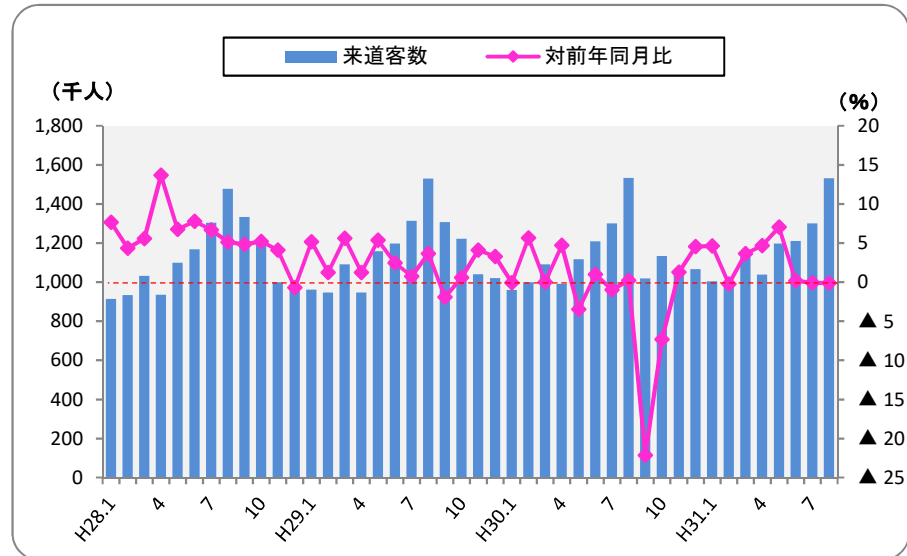
なお、負債額が10億円を超える大型倒産は0件でした。

○令和元年8月の来道者数(北海道)は153.1万人で、2か月連続で前年同月を下回りました(▲0.1%) (図13)。

【参考】令和元年8月の外国人入国者数(新千歳空港)は12.9万人で、9か月振りに前年同月を下回りました(▲20.8%) (図14)。

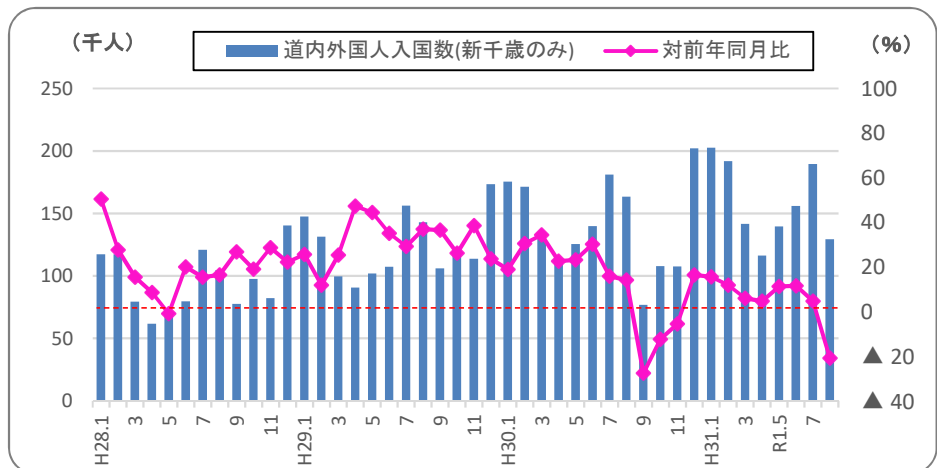
● 観光客の動向

【図13】来道者数の推移(北海道) 8月分



＜資料＞(公社)北海道観光振興機構

【図14:(参考)】外国人入国者数(新千歳空港)8月分



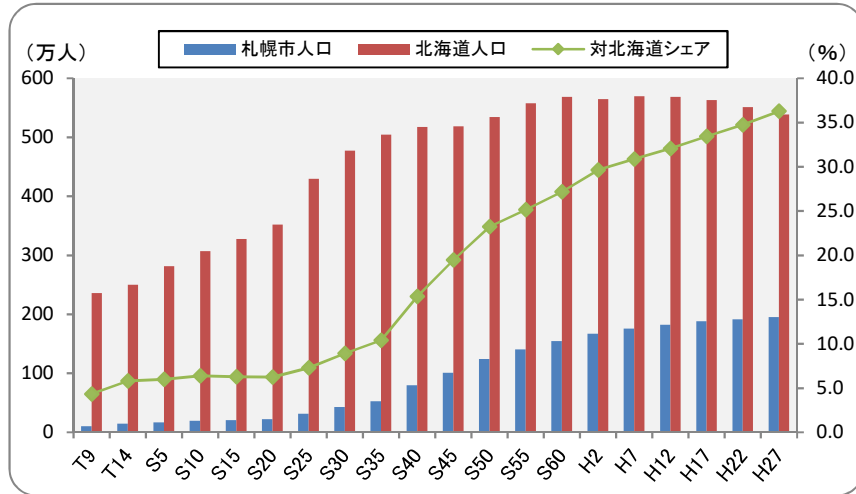
＜資料＞法務省入国管理局

3. 札幌の産業規模

札幌の産業規模を、「人口」、「事業所数・従業者数」、「市内総生産」等の分野ごとに紹介します。

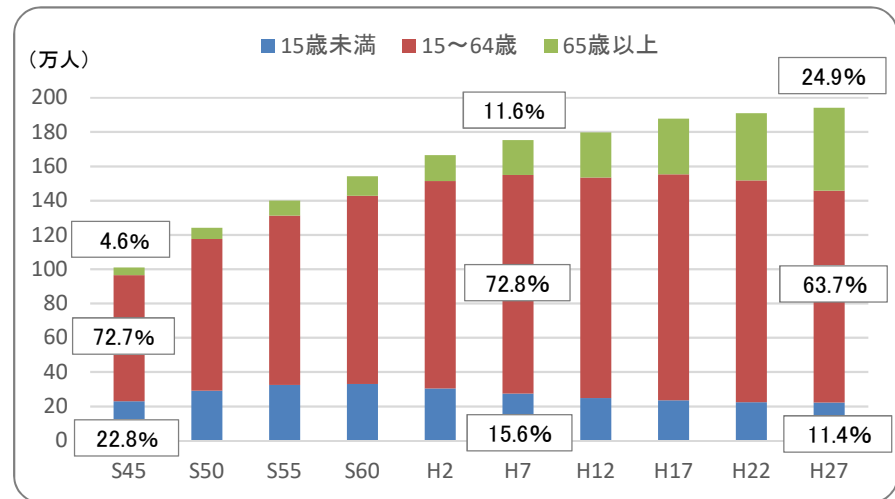
● 札幌市の人口

【図15】札幌市・北海道の人口の推移(外国人を含む)



<資料>総務省統計局「国勢調査」、北海道総合政策部地域行政局、札幌市まちづくり政策局政策企画部 (人口数は各年10月1日現在)

【図16】札幌市の年齢別人口の推移(外国人を含む)



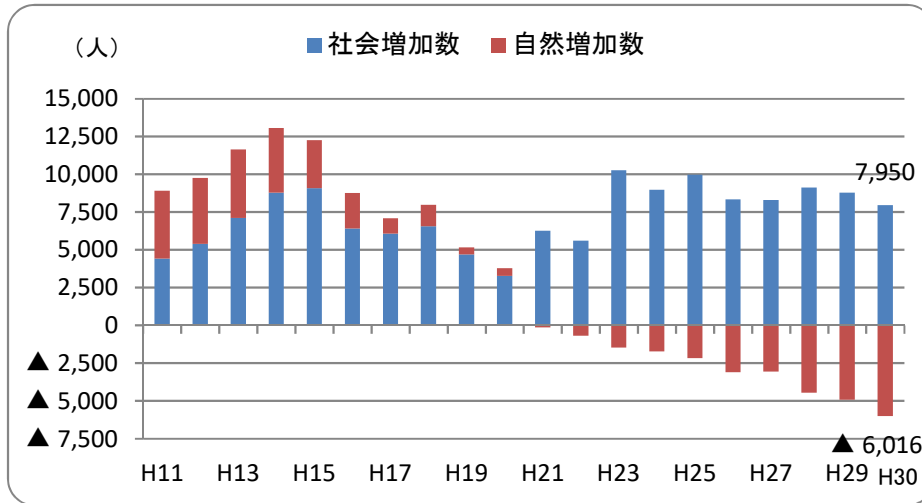
<資料>総務省統計局「国勢調査」、札幌市まちづくり政策局政策企画部 (人口数は各年10月1日現在)

- 国勢調査による5年毎の人口推移をみると、近年、札幌市は人口増加率が鈍化傾向にあります。また、札幌市の人口の対全道シェアは年々高まっており、平成27年は36.3%となっています(図15)。
- また、5年毎の年齢別人口の推移を見ると、65歳以上人口の割合が増加する一方で、15歳未満人口が減少する傾向が続いています(図16)。

3. 札幌の産業規模

札幌の産業規模を、「人口」、「事業所数・従業者数」、「市内総生産」等の分野ごとに紹介します。

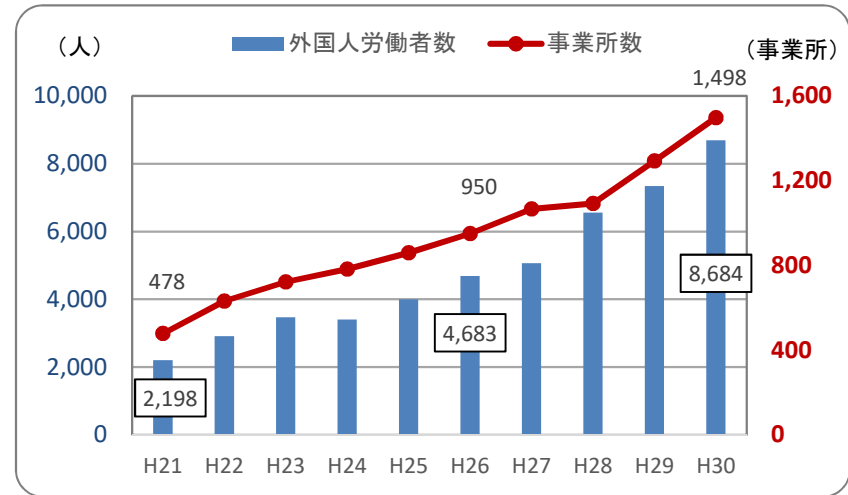
【図17】札幌市の人口動態の推移(日本人のみ)



<資料>札幌市住民基本台帳

● 札幌圏の外国人雇用状況

【図18】札幌圏の外国人雇用事業所数及び外国人労働者数



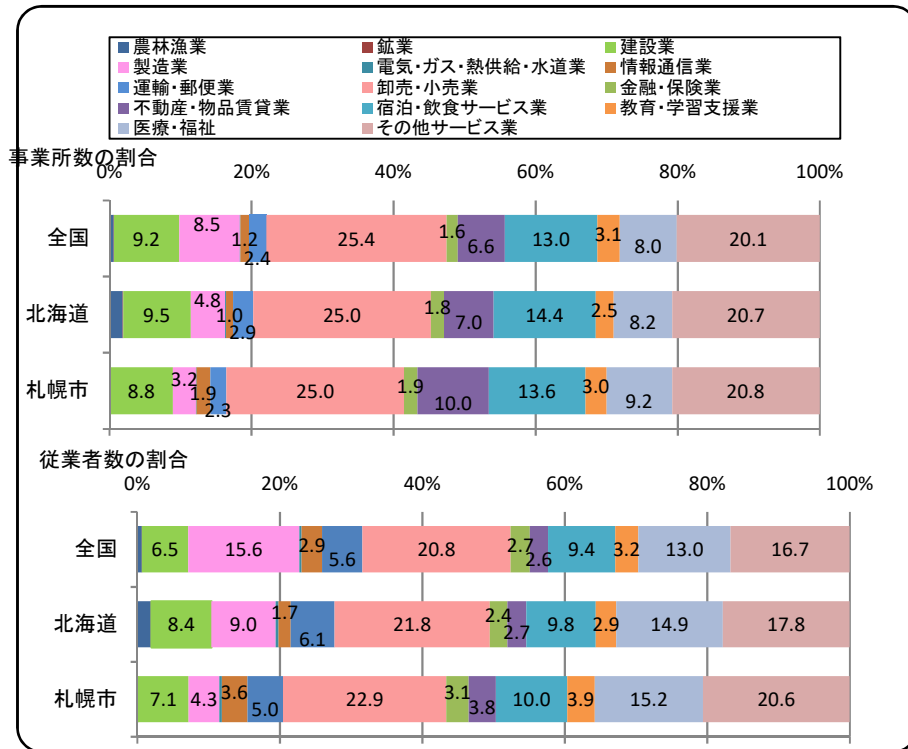
<資料>厚生労働省北海道労働局「外国人雇用状況の届出状況」
(各年10月末現在)

※札幌圏とは、札幌市、江別市、北広島市、石狩市(浜益区を除く)、当別町、新篠津村を指す。

- 住民基本台帳による近年の人口動態の推移をみると、自然増加(出生-死亡)は平成21年からマイナスに転じており、少子化傾向が表れています。その一方、社会増加(転入-転出)は平成23年に1万人を超え、その後は概ね8千~9千人台の規模で推移しています(図17)。
- また、札幌圏の外国人雇用状況の推移をみると、近年、外国人雇用事業所数及び外国人労働者数はともに増加傾向にあります(図18)。

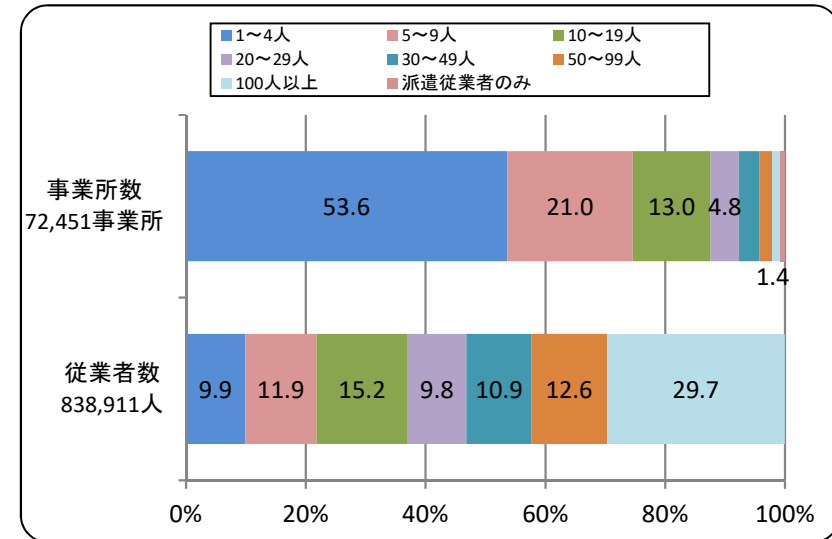
札幌市事業所数・従業者数

【図19】事業所数と従業者数の産業別内訳(民営)(平成28年6月1日現在)



<資料>総務省統計局平成28年「経済センサス活動調査」

【図20】従業者規模別事業所数及び従業者数の割合(民営)

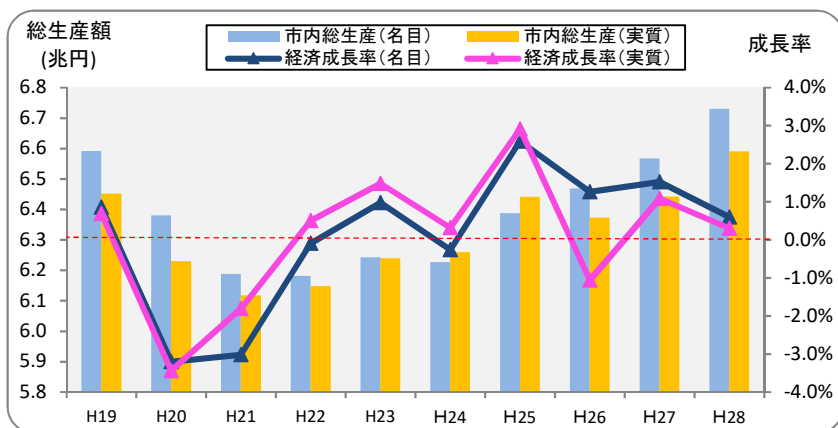


<資料>総務省統計局平成28年「経済センサス活動調査」

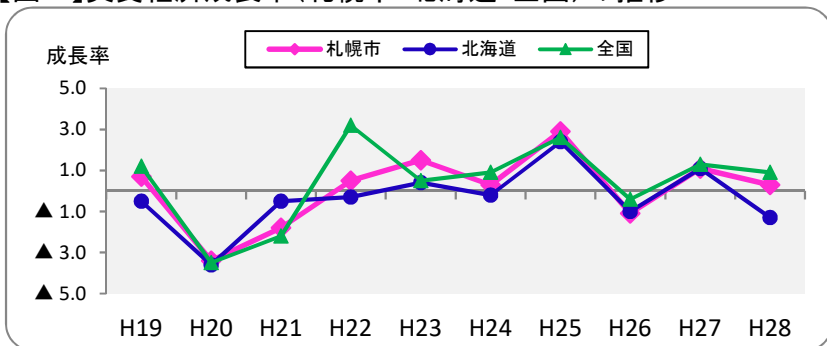
- 札幌市の産業構造は、事業所数、従業者数とともに、全国に比べて製造業などの2次産業の割合が低く、3次産業が中心となっています(図19)。
- 従業者規模別に札幌市の事業所数をみると、従業者「1~4人」が全体の53.6%と半数以上を、事業所規模9人以下の事業所が、事業所全体の約4分の3を占めています。また、「100人以上」の事業所は、事業所数では事業所全体のわずか1.4%ですが、従業者数では約3割を占めています(図20)。

● 札幌の市内総生産・市民所得

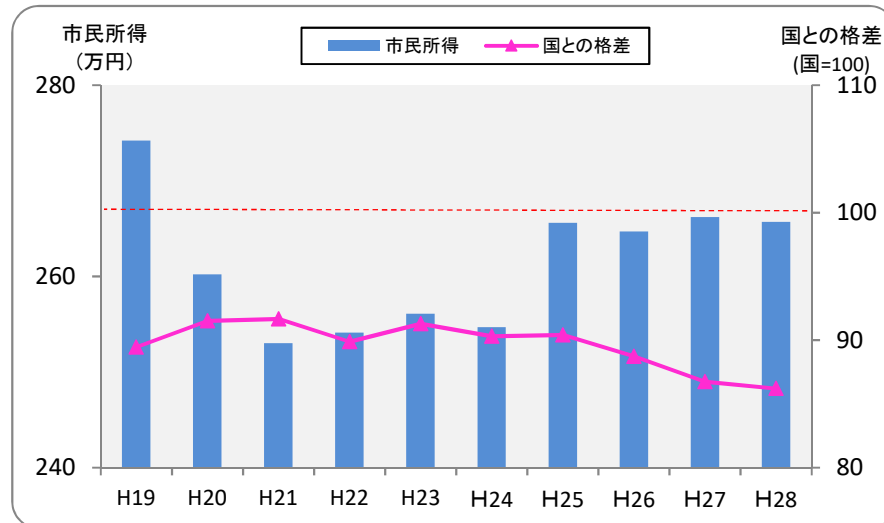
【図21】総生産額・経済成長率の推移



【図22】実質経済成長率(札幌市・北海道・全国)の推移



【図23】札幌市の一人当たり市民所得と国民所得との格差の推移

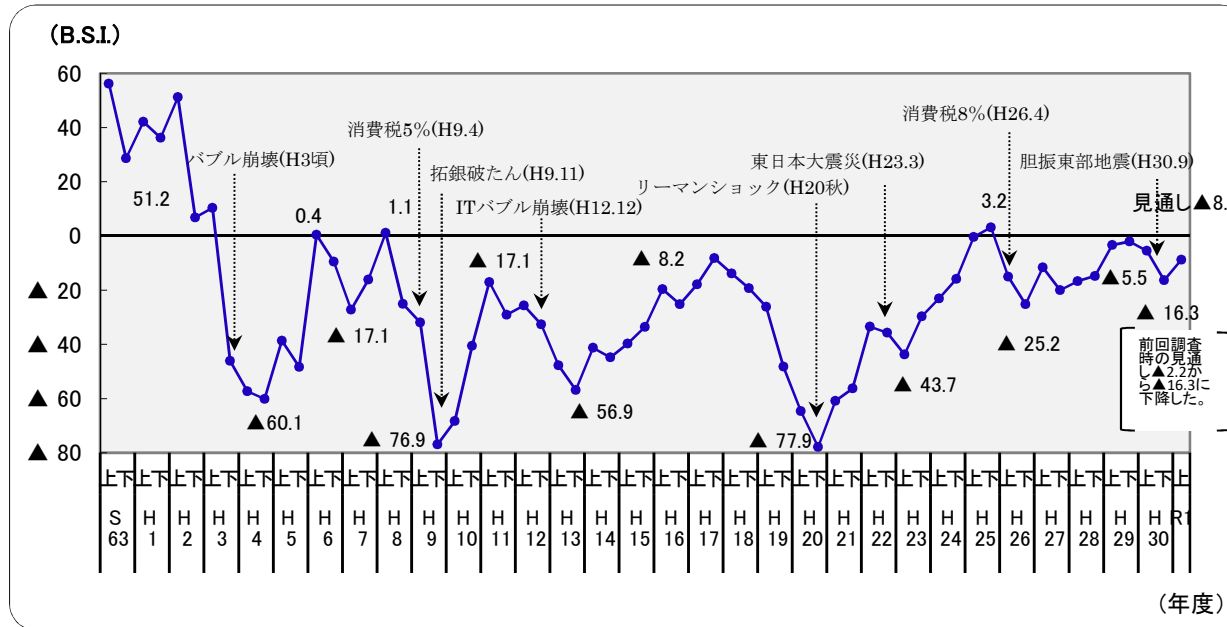


<資料>内閣府「平成29年度国民経済計算」、北海道「平成28年度道民経済計算」、まちづくり政策局政策企画部「平成28年度札幌市民経済計算」

- 平成28年度の札幌市の市内総生産は、名目6兆7,301億円（経済成長率+0.6%）、実質6兆5,907億円（経済成長率+0.3%）です。名目は4年連続のプラス、実質は2年連続のプラスとなっています（図21）。
- 平成28年度の実質経済成長率は、札幌市+0.3%に対し、全道▲1.3%、全国+0.9%となっております（図22）。
- 平成28年度の市民1人当たりの市民所得は、2,657千円で2年ぶりの減少（▲0.2%）となりました。また、札幌市の1人当たり市(国)民所得の対全国比(全国=100)は86.2で、前年度と比べて0.5ポイント低下しました（図23）。

● 市内企業の景況感

【図24】企業経営動向調査の結果



※B.S.I.(景況判断指数)
 景気が以前と比較して、「上昇している」と回答した企業の割合から「下降している」と回答した企業の割合を差し引いた数値。札幌市では、毎年度2回調査を実施している。

○平成30年度下期（30年10月～31年3月）の市内の景気について、30年度上期に比べて「上昇」とみる企業の割合（10.6%）から「下降」とみる企業の割合（26.9%）を減じた市内景況判断B. S. I. は、▲16.3であり、2期連続で下降しました（図24）。

○令和元年度上期（31年4月～元年9月）の市内の景気の見通しについて、今期に比べて、「上昇」とみる企業の割合（10.8%）から「下降」とみる企業の割合（19.6%）を減じた市内景況判断B. S. I.（見通し）は▲8.8となり、今期（▲16.3）と比べて上昇する見通しとなっています（図24）。

